



# 第25回上田八木・金融政策サーベイ(2019年1月)の結果について

～全回答者の99%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。3か月先の金利予想については、10年利付国債を中心に「上昇」が減少し、「不変」が増加。出口開始時期についても、「3年以上」と回答する先が増加。

2019年1月21日(月)  
上田八木短資株式会社

## 【調査の総括】

- 全回答者(172先)の99%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。前回とほぼ同じ内容。
- 「10年利付国債」金利予想では、「不変」と予想する先が増加(前回62%→今回72%)。
- 出口開始時期に関する質問では、「3年以上」と回答する先が増加(前回31%→今回41%)。

## 【調査の概要】

調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(192先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2019年1月16日～18日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	89.6% (回答者数172先<Q1における回答者数>)

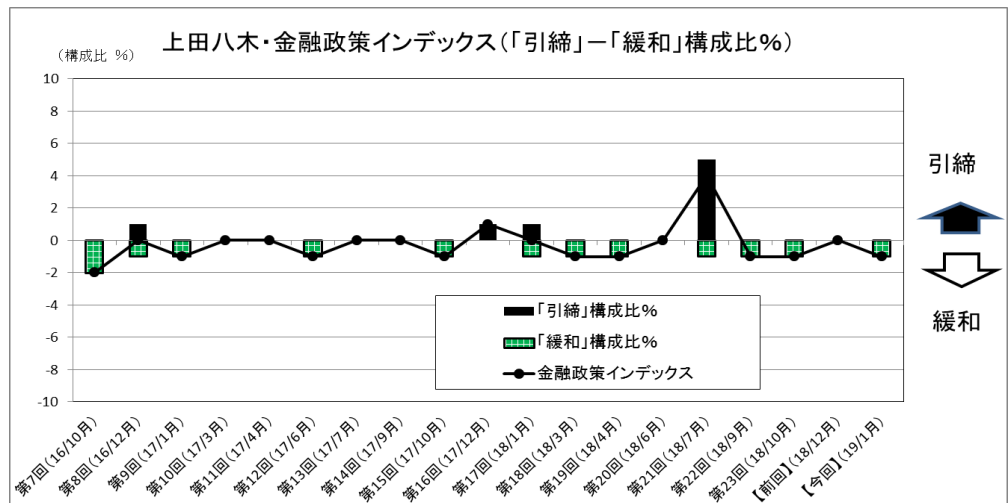
## 【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(1月22日～1月23日)における決定について

回答者の99%が「不変」の見方。

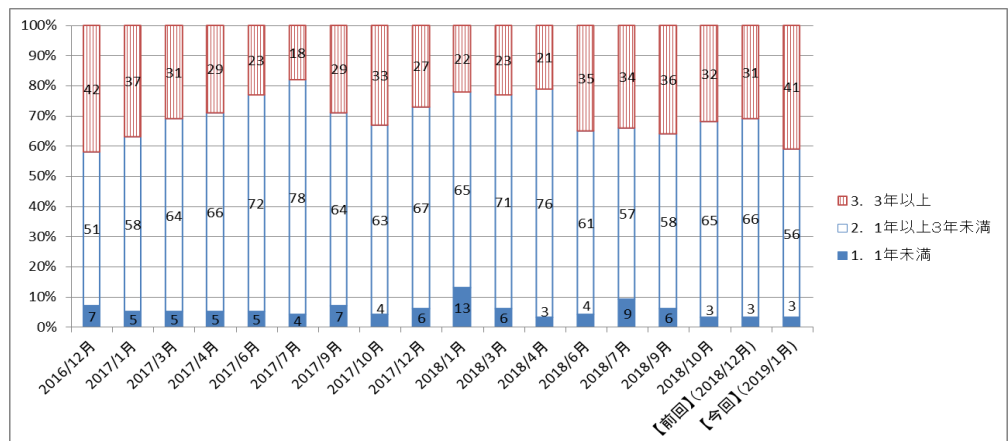
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲1」(前回は0)であった。

(ご参考)



【追加質問: Q5】  
現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

1年以上3年未満と回答する先は56%に減少(前回66%)、3年以上と回答する先が41%に増加(前回31%)。



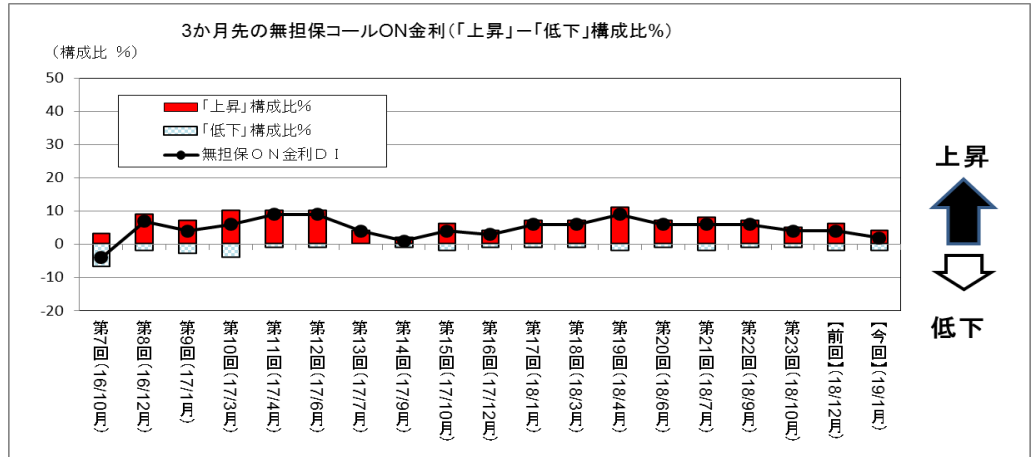
(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の94%が「不変」と予想。2%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は4%であった。

「上昇」とみる先は前回から2%ポイント減少の+4%（前回6%→今回4%）。

「低下」とみる先は前回と同じ+2%（前回2%→今回2%）。

「不変」とみる先は+2%ポイント（前回92%→今回94%）。



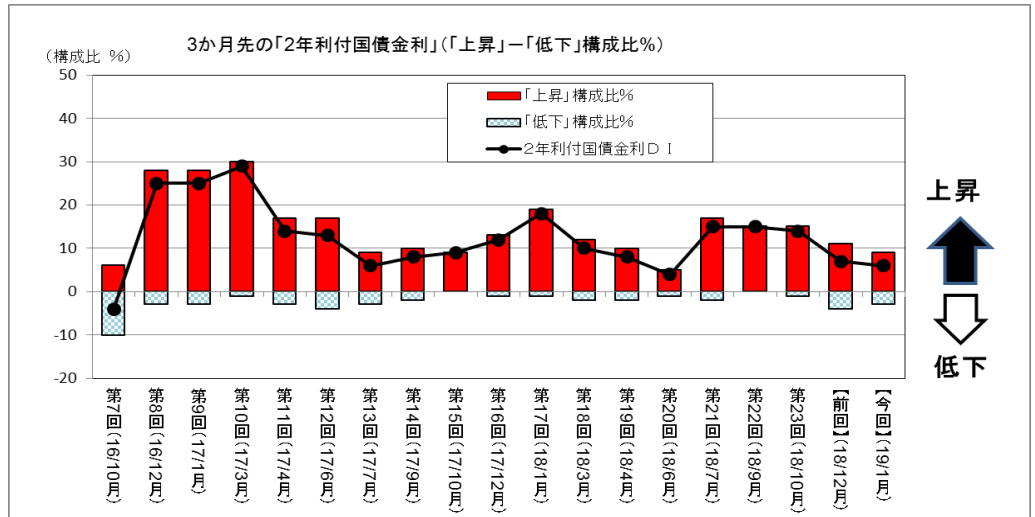
(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の88%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者3%。「上昇」を予想した先は9%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲2%ポイント（前回11%→今回9%）

「低下」とみる先は▲1%ポイント（前回4%→今回3%）。

「不変」とみる先は+3%ポイント（前回85%→今回88%）。

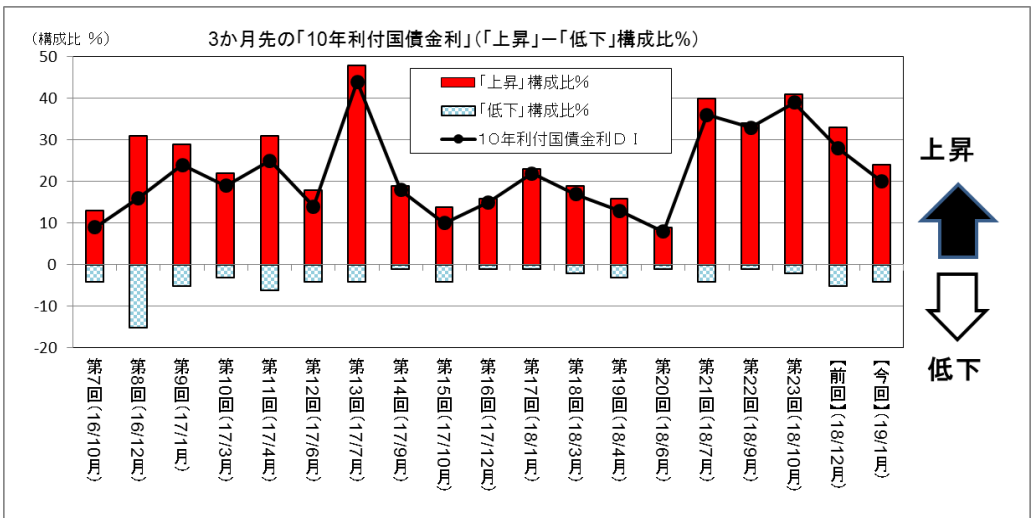


(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の72%が「不変」を予想。4%が「低下」、「上昇」を予想した先は24%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲9%ポイント（前回33%→今回24%）。「低下」とみる先は▲1%ポイント（前回5%→今回4%）。

「不変」とみる先は+10%ポイント（前回62%→今回72%）。



【本調査に関する照会先】  
企画部 島本、保元（電話 03-3272-0293）



# 第25回上田八木・金融政策サーベイ(2019年1月)

発表日：2019年1月21日（月）14：00 上田八木短資株式会社

調査日	2019年1月16～18日
調査先	192先
回答率	89.6%

## (Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（1月22日～1月23日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

	(今回)	(前回12月18日)	変化幅
緩和	1 (構成比%)	0	+1
不変	99	100	▲1
引締	0	0	+0
上田八木・金融政策インデックス (「引締め」-「緩和」構成比%)	▲1	0	▲1

## (Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回12月18日)	変化幅
低下	2	2	+0
不変	94	92	+2
上昇	4	6	▲2
短期金利予想DI	+2	+4	▲2

## (Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回12月18日)	変化幅
低下	3	4	▲1
不変	88	85	+3
上昇	9	11	▲2
2年国債金利予想DI	+6	+7	▲1

## (Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回12月18日)	変化幅
低下	4	5	▲1
不変	72	62	+10
上昇	24	33	▲9
10年国債金利予想DI	+20	+28	▲8

## 質問(Q5) 現状の金融緩和（オーバーシュートコミットメント）からの出口開始時期はいつ頃か。

(ここでの「出口開始時期」はオーバーシュートコミットメントを考慮したもので、例えば消費者物価が4月に目標にワンタッチした後に6か月後にその時期が来ると予想すると「出口開始」は10月という意味です。資産買入れの残高が減っても物価目標を達成していなければ「出口開始」とはみなしません)

	(今回)	(前回12月18日)	変化幅
1. 1年未満	3%	3%	+0%
2. 1年以上3年未満	56%	66%	▲10%
3. 3年以上	41%	31%	+10%